

# 第4学年道徳学習指導案

日 時 平成22年11月2日（火）5校時  
場 所 4年教室  
児童数 10名  
指導者 蛭名 里史

- 1 主題名 郷土を拓く 4－（5）郷土愛
- 2 資料名 「<sup>そでやま</sup>外山開拓の祖 及川恒次」（郷土資料 自作）

## 3 主題設定の理由

### （1）価値について

内容項目4－（5）は、「郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ」ことを指導内容とし、この学年においては家庭だけでなく、生活範囲が広がることに伴い、地域の行事や活動に興味をもち、積極的にかかわろうとする態度を育てることをねらいとしている。

生活様式が変化する中で、子どもたちがもつ郷土に対する思いも変化してきている。自分が住む町には、多くの人々が守り、伝えてきた行事や活動、人と人とのつながりがあることを理解させ、郷土を愛する人々の思いがこめられていることを考えさせたい。

また、地域のために働く人々の功績を知り、郷土を大切にできる心情を育てたい。

### （2）資料について

本資料は、次のような内容となっている。及川恒次は南部藩の家臣として、外山の開拓を命ぜられた。外山地区は、わずか3戸の地区であったが、南部藩と伊達藩の藩境に位置するこの地区は、警護に重要な地区であった。開拓を命ぜられたが資金が足りない。そこで、及川恒次は、野山を歩き、金脈を見つけることにした。

すでに、長野地区では金山が栄えており、外山にも金脈があるのではないかと考えたのである。名取沢で金脈を見つけ、人を雇い、金の採掘に力を入れる。やがて、金脈はつき、金山で働いていた人々は職を失う。人々が引き続き外山で暮らしていけるようにと、資金を得た恒次は、開墾に着手する。寒い土地ではあったが、気仙地方と同じ種類の柿になっているのを、恒次は知っていた。きっと田畑が開けるだろうと決心し、人々を説得し、田畑を作る。ほかにもさまざまな工夫をしながら、人々の生活を豊かにしていった。

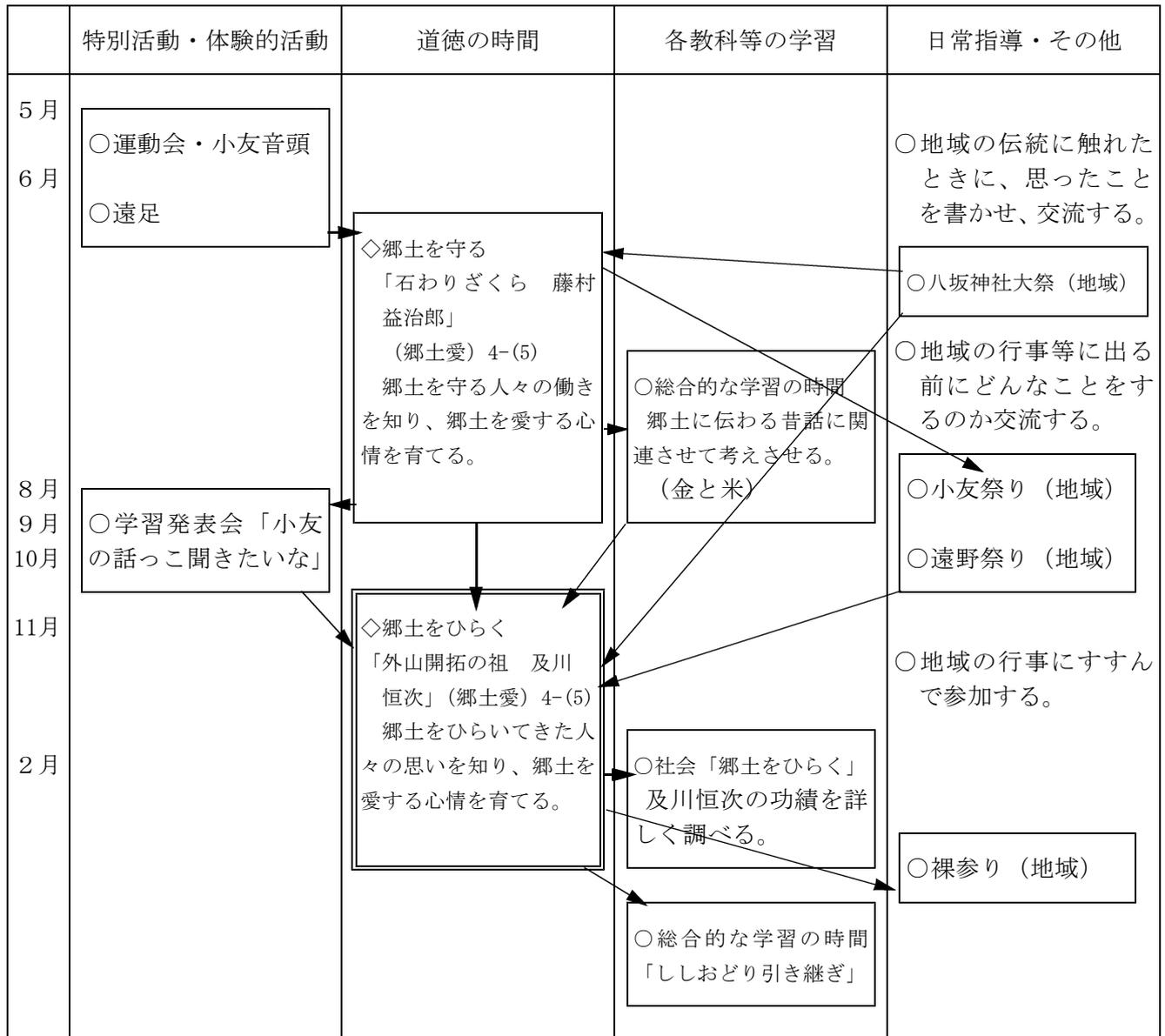
この資料を通して、熱意と工夫で郷土を拓こうとする思いに気づかせ、郷土を守っていこうとする心情を育てていきたい。

### （3）児童について

4年生の児童は、地域の伝統行事に参加する機会が多くなってきている。祭りや踊り等を通して、地域のよさに触れている。

5月に実施した意識調査によると、郷土愛に関する質問に対しては、高い意識を持っていることがわかった。しかし、各行事に自分から進んで参加するのではなく、親からすすめられて参加しているところが見受けられる。郷土を拓いてきた人々の思いに触れさせ、「自分も地域を守っていきたい」という思いを育て、小友のよさを自ら受け継いでいくという意識を高めていきたい。

4 本時を「要」として位置づけた指導構想図



5 研究テーマに関わって

「心豊か」

郷土の文化や歴史、芸能に関心をもち、進んで調べたり、文化活動に参加したりできる子ども



〈仮説(1) 児童の思考や話し合いを深める手だて〉

- 発問の工夫  
人々を説得して回る恒次の心情を問い、金脈がつきて、人々が迷わないように農業を始めようとする恒次さんの思いをとらえさせる。
- 板書の工夫  
挿絵を効果的に用い、外山開拓へかける恒次の思いをとらえさせる。

〈仮説(2) 表現活動などの言語活動の充実〉

- 書く活動  
開拓を進めてきた恒次のはたらきについて感じたことや小友の地域や住んでいる人々に対する自分の思いを書かせ、郷土に対する思いを深める。

	<p>小友は伊達藩との藩境の町。警備上重要なところとして、南部藩が及川氏に小友・外山の警備を命ずる。恒次は外山開拓事業にあたる。</p>		
場面	<p>恒次は、開拓をするための資金源として金脈を探し、名取沢で金脈を発見する。</p>	<p>金脈はつき、人々のくらしは苦しくなる。恒次は人々を説得し、開墾に着手する。</p>	<p>作物もとれ、さまざまな工夫をしたことにより住む人々も増えていった。</p>
主人公の行為ととりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外山は家が3軒しかない。一軒一軒が離れていて、ほとんどが荒地。</li> <li>・まずは、人々を集めるために、資金が必要。</li> <li>・山歩きが好き。小友は金が採れるところ。山歩きをして金をさがす。</li> <li>・「名取沢」で金脈を発見する。</li> <li>・人々を集め、金を採り始める。人々が生活できるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やがて金脈はつき、金は採れなくなる。人々の仕事もなくなる。</li> <li>・開墾を決意するが、人々の同意が得られず、苦勞する。</li> <li>・何度も説得にあたり、やっと人々の合意を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作物もとれはじめる。</li> <li>・人々は農業をしてくらせるようになった。</li> <li>・農業の他にも、さまざまな産業に着手する。(木炭製造、養蚕、コウゾ栽培、杓子製造)</li> <li>・藩境の警備にもあたった。(武術・馬術訓練、狩猟)</li> <li>・人々も集まり、37戸の集落となる。</li> </ul>
主人公の意識の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開拓するには資金が必要だ。</li> <li>・金脈をさがし、金を開拓の資金にしよう。</li> <li>・どうにかして、金脈を見つけなくては。</li> <li>・長野で採れるのだから外山でも採れるにちがいない。</li> <li>・まずは、金を採って人々が暮らせるようにするぞ。</li> <li>・人々が集まって、生活できるようになってよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金山で働いていた人々の仕事を考えなくては。</li> <li>・気仙と同じ柿がなっているから、きっと作物がとれる。</li> <li>・人々もわかってくれた。やっと開墾できるぞ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々のくらしをもっとよくしたい。</li> <li>・人々が農業をして暮らせるようになってきてよかった。</li> <li>・少しでも楽にするためにもっと工夫していこう。</li> <li>・人々が集まって外山で暮らしていけるようになってよかった。</li> </ul>
児童の意識の変容過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で金脈を見つけようとするなんて、すごいな。</li> <li>・家が3軒しかなかったんだあ。</li> <li>・笛で合図をするんだ。</li> <li>・そんなところを開拓するのはたいへんだ。</li> <li>・ずいぶんと歩いたんだろうな。見つかってよかった。</li> <li>・人々が生活できるようになってよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柿がなっているところから作物ができると考えるとところがすばらしいな。</li> <li>・何度も説得に回って苦勞しただろう。</li> <li>・みんながわかってくれてよかった。</li> <li>・やっと開墾ができる。気持ちが通じたんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やっと作物がとれるようになった。よかったな。</li> <li>・農業のほかにもいろいろな産業を考えるなんて頭がいいな。</li> <li>・人々のことをちゃんと考えているな。</li> <li>・行動力のある人だな。</li> <li>・3戸が37戸にもなってすごいな。</li> </ul>
基本発問	<p>恒次さんは金脈を見つけたときにどんな気持ちだったでしょう。</p>	<p>恒次さんはどんな思いで人々を説得して回ったのでしょうか。</p>	<p>恒次さんはどんな思いでいろいろな工夫をしていったのでしょうか。</p>



<p>35分</p>	<p>(3) 恒次がさまざまな工夫をしていく場面について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>恒次さんはどんな思いで、いろいろな工夫をしていったのでしょうか。</p> </div> <p>3 学習したことを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>恒次さんのはたらきについて感じたことや小友の宝への自分の思いを書きましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この外山を人々がくらするところにするぞ。</li> <li>・外山のために働くぞ。</li>   <li>・人々のくらしをもっとよくしたい。</li> <li>・少しでも楽にするためにもっと工夫をしよう。</li> <li>・人々が集まって外山でくらするようにしていこう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵をはり、説得する様子をとらえさせる。 (板書)</li>   <li>・いろいろな工夫をしていく恒次の心情を問うことで、人々の生活を少しでもよくしていこうとする恒次の思いに共感させる。(発問)</li>   <li>・アンケートを振り返り、宝を守っていこうという気持ちを書かせる。 (書く)</li> </ul>
<p>終末5分</p>	<p>4 石碑の写真を見て、恒次の功績をたたえるために、金を砕く石臼で石碑が作られていたことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石碑を建てられるくらい、すごい人だったんだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を見せ、及川恒次の功績を振り返らせる。</li> </ul>

(3) 板書計画

外山開拓の祖 及川恒次  
 (アンケート結果) (廊下側)  
 (電子黒板) (右側)

及川恒次 南部氏のけらい おじいさんのときから

金脈を  
見つける  
恒次

金みやくを見つけた！

- ・さがしてよかった。
- ・人々を集めてくらす

外山もかいたくできる

- ・気仙と同じかき。
- ・住めるように
- ・ずっとくらせるように。
- ・外山のために。

説得して  
回る恒次

木炭 養蚕  
しゃくし  
コウゾ

いろいろな工夫をする。

- ・くらしをもっとよくなりたい。
- ・少しでも楽にするために
- ・もっと工夫をしよう。
- ・人々が集まってくらせるように。

人々のために 地いきをひらく

(4) ワークシート

外山開拓の祖 及川恒次

名前

○恒次さんのはたらきについて感じたこと、  
 小友の宝への自分の思いを書きましよう。

恒次の絵